

こすもす

発行日：令和4年2月15日

発行者：市原市更級5丁目 1-51

市原市立中央図書館

よくよむ

TEL 0436 (23) 4946

<http://www.library.ichihara.chiba.jp>



もうすぐ春です。新しいことしませんか？ 3月の中央図書館は講座がいっぱいです！

3月17日（木）

午後1時30分から
3時

知の情報拠点活用講座（医療・健康）

「口腔ケア改善」～口腔ケアで、すこやかな毎日を

お口の健康を守る「歯、歯ぐき、舌、唾液分泌」についての知識と口腔ケアの要といわれる各パーツごとの「セルフケア方法」を学べる講座です。

講師 花王グループカスタマーマーケティング（株）
社会コミュニケーション部門 宮城 秀子 氏



3月18日（金）

午後1時30分から
3時

子どもと読書講座

脳と読書のすてきな関係

読書が脳の発達にどうかかわるの？
読み聞かせは脳の発達に効果があるって本当？
子ども時代の読書の大切さと脳の発達についてお話いただきます。

講師 東北大学加齢医学研究所
助教 榊 浩平 氏



3月19日（土）

午前10時から12時

知の情報拠点活用講座（ビジネス）

「市原で大切にしたい会社」に学ぶ

～未来へ進むSDGs経営～

「市原で大切にしたい会社表彰制度」（主催：市原商工会議所、後援：市原市）は、2017年より開始されました。経営理念をしっかりと持ち、経済環境に翻弄されることなく、従業員、取引先、お客様、地域社会を大切にしたい「思いやりの経営」を実践することによって、持続発展する企業を表彰するものです。受賞した企業の経営者から大切にしたいもの、学んでみませんか？



大矢氏 石井氏
（2019年度受賞）

講師 株式会社花茂 代表取締役 大矢 みな 氏
株式会社ユニペン 代表取締役 石井 亮介 氏

参加方法① 会場参加 場所：中央図書館視聴覚ホール 定員 30名

参加方法② オンライン（Zoom ウェビナー） 定員 100名

募集開始：令和4年3月1日（火）から

申込方法：講座名・参加方法・氏名・電話番号・メールアドレスを記入の上、市原市立図書館 Web サイト申込フォーム・Email・FAX または電話か中央カウンター窓口で事前申込

※令和4年3月1日（火）・2日（水）は休館のため、電話・窓口申込はできません。

※会場参加については、新型コロナウイルス感染症の状況によっては縮小、もしくはオンラインのみになることがあります。その場合は原則メールでお知らせいたします。



令和3年度

利用者アンケート結果報告 ((速報))

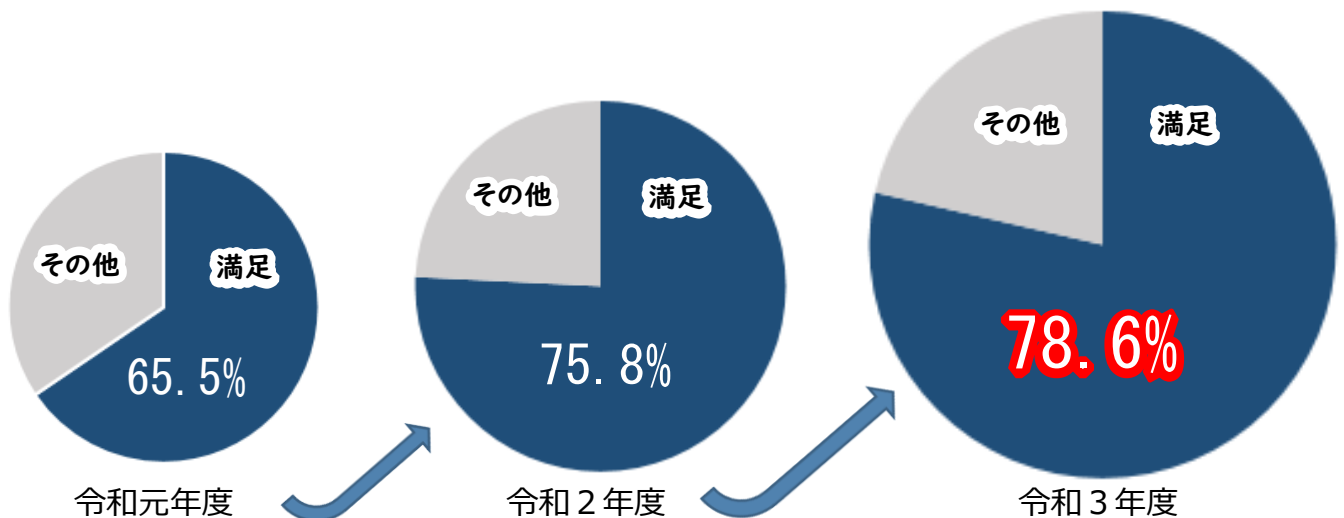
Thank
you 777
answers!

図書館サービスの向上のため、令和3年10月30日（土）から11月26日（金）の間、中学生以上を対象に利用者アンケートを行いました。

配布数1,267名に対して、777名にご回答をいただきました。

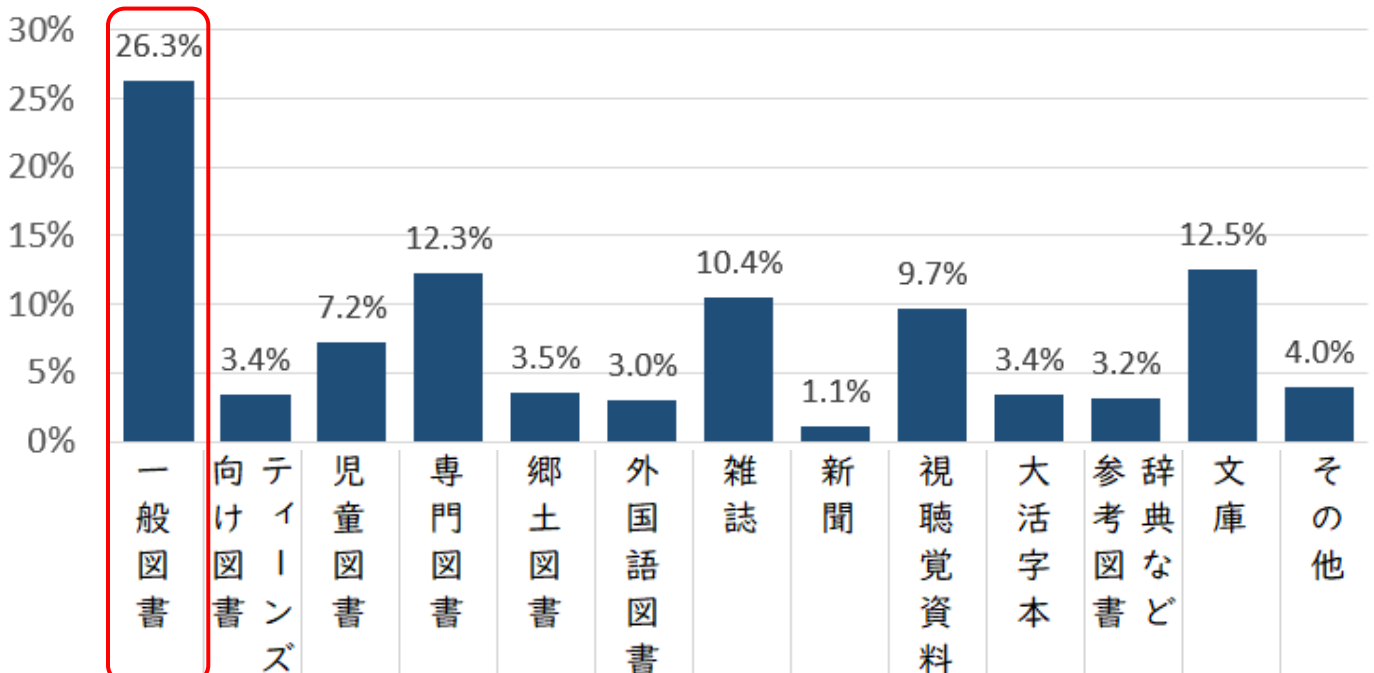
（回収率61.3%、回答内訳：紙459人、web318人）

○ 総合満足度

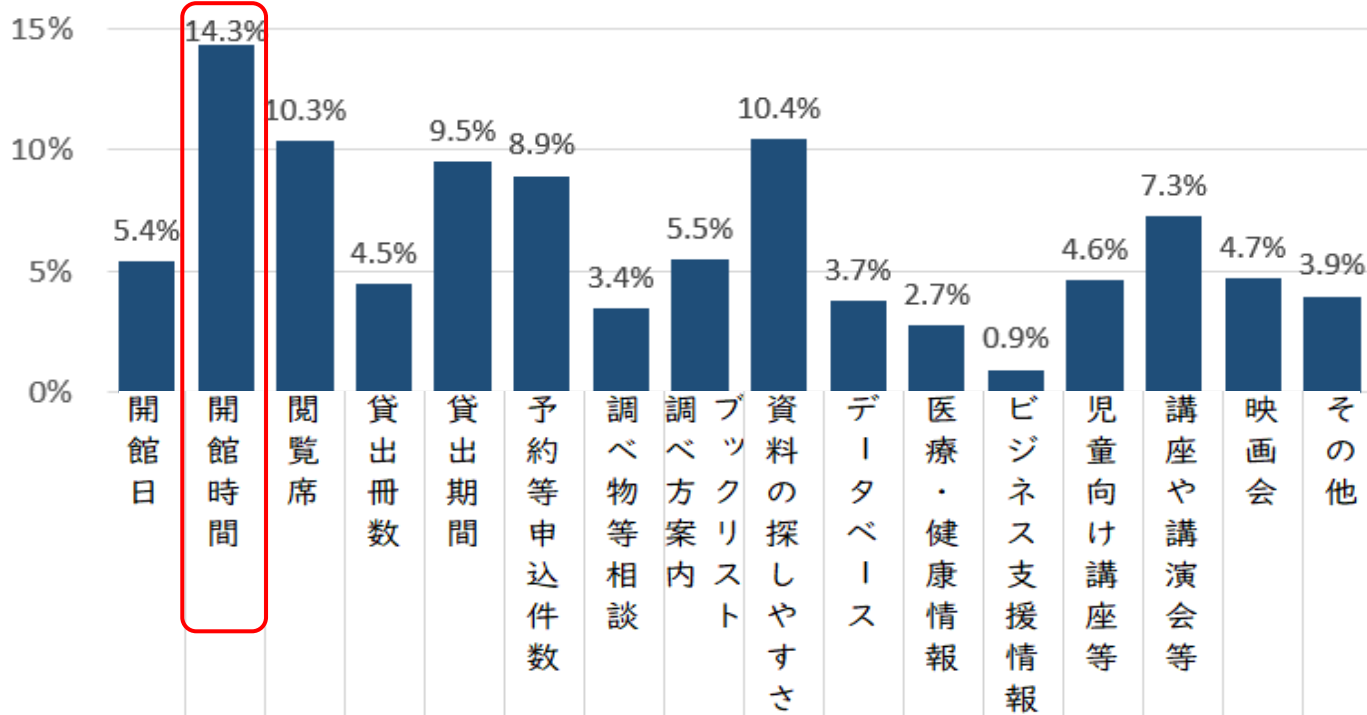


施設改修工事や新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による休館の影響を受け、低下していた総合満足度は、休館前の水準に回復したと考えられます。

○ 充実して欲しい図書資料



○ 充実して欲しいサービス



最も充実して欲しい図書資料は、「一般図書」が 26.3%で最も高く、最も充実して欲しいサービスは、「開館時間の延長」の 14.3%となりました。

概ねどの年代でも、最も充実して欲しい資料・サービスは同じ傾向となっています。

○ その他の御要望について



閲覧席や自習できる場所を増やして欲しいです。

〔二階集会室〕



一階の閲覧席が満席の場合、二階の集会室を臨時的閲覧席として開放しています。

パーティションで区切られていますので、安心して御利用ください。



本が場所がわかりにくく探しづらいです。

〔書架案内図〕



〔著者名見出し〕



「書架案内図」や「著者名見出し」の整備を進めていきます。また、職員へも気軽にお声がけください。



これからも「未来を創造する学びの図書館」として、サービス向上を図ってまいります。



レファレンスサービスって何？

あまりなじみのない言葉だと思います。

無理やり、日本語に訳そうとすると「参考業務」とか、さらによくわからない言葉になってしまいます。平たく言い換えれば「図書館利用者の研究や課題（問題）解決の援助を行うこと。」ということになりますでしょうか。

「レファレンス」は公共図書館が、地域住民の情報入手と学習機関となるための必須の業務であり、この業務の適否は市民の皆さまの図書館に対する信頼度に深く影響するものでもあります。

ただし、レファレンスを進めていく上で大事なことは、利用者様のご協力です。レファレンスサービスは司書が一方向的に進められるものではなく、ある程度、探している資料や情報の目安がつけば、利用者と司書と一緒に書架に出向き協力して探索する、つまり協働・協力して「調べもの・探し物」をしていくことが課題解決への早道となるわけです。

これを“フロアワークレファレンス”と呼んだりもします。本格登山をやられる方はご存じだと思いますが、一定以上の高い山に登る際には、山岳ガイドが必要です。登山ガイドを「シェルパ」なんて呼んだりしますが、まさに図書館司書は「利用者が求める答え」という頂上にたどり着くための“シェルパ”なのだと思います。利用者の皆様が、図書館職員（司書）に声をかけることは決心のいることだと思います。自分もホームセンターなどで買い物をしているとき、目的を達成するためにどのようなものを購入すべきなのか分からなくて迷っても、なかなか店員さんに声をかけられず、声をかけることが出来ても、遠回しな質問になりがちです。

そこで、司書は質問のやり取りの中で、利用者様が本当に求めているものが何かをつかめる技術を習得することが必要になってきます。このような技術を“レファレンスインタビュー”と呼んだりします。

レファレンスインタビューには、「復唱法」や「会話法」などの手法があります。皆さまがレファレンスを受けるとき、こんな技術を使っている職員がいたら、意外と優秀な職員（司書）です。（笑）

様々な材料や情報（そのことについて何で知ったのか？自分で他にどんなものを調べてみたか等）が多ければ多いほど、回答（目的地）に早くたどり着くことが可能です。

司書との協働作業で、さらに図書館を有効に活用してみてください。（主幹 桑原）



本と図書館に関する 今日は何の日 「2月21日」



最近、新聞を読む機会がありますか？

皆さんはパソコンやスマホ等から情報を得ている方が多いと思いますが、以前は情報を得る手段としては、新聞等の活字がほとんどでした。

そこで、紹介する日は「2月21日・日刊新聞創刊の日」です。

明治5年(1872年)の2月21日、東京日日新聞(現在の毎日新聞)が東京で初めて日刊紙として創刊されました。

また、東京日日新聞は、新聞個別配達も3年後に世界で初めて実施しました。東京日日新聞は、創刊号からマイクロフィルムとして当館で保管しており、閲覧もできます。

一方で、“活字離れ”という言葉も最近耳にするようになりましたが、新聞を読むことで国内外の情勢・経済、生活・暮らしに関すること等多くの情報を得ることができ、活字を読むことで読解力も養うことができます。

当館でも一般紙をはじめとして英字新聞、スポーツ新聞、各業界紙等を揃えていますので、この機会に新聞に触れてみてはいかがでしょうか。（S）